

東京貸倉會社定款第一草案



114  
A 3621  
1



東京貸倉會社定款

大正十一年四月  
大隈 債 庫 印

シタルニ付株主一同協議決定スル條々左ノ如シ

第一章

總則

第一条 當貸倉會社ハ内國人民ノ所有ニ係ル諸貨物ヲ我々管理ノ倉庫ニ預リ之ニ對シテ發行スル証書ヲ抵當トシテ貸付全テ爲シ又此ノ証書ヲ競市場ニ賣買シテ貨物ノ運轉ヲ活潑自由ナラシムルニ在リ今其事業ヲ分ツテ三部ト爲シ之ヲ本社ニ總括ス當會社ノ株

主ニ列スル人々ハ此定款並ニ貸倉會社申合  
規則ヲ遵守シ互ニ公正ナル利益ヲ保有スル  
キ証據トシテ各記名調印ヲ為セリ

第二條 當會社ニ於テ營業ヲ為スヲ得ルハ前  
條ニ掲ケタル事項ニ限ル而シテ其經營スル  
規程ハ必ス此定款並ニ貸倉會社申合規則ニ  
照準スヘシ

第三條 當會社ノ名號ハ東京貸倉會社ト稱シ  
本社ヲ某區某町某番地ニ置クヘシ

第四條 當社自ラ所有スル倉庫ノ外府下一般  
ノ蔵所ヲ以テ附屬倉庫ト為スヲ得ヘシ

第五條 當會社營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿

十ヶ年間タルヘシ

第六條 當會社ノ株主ハ無限責任タルヘシ故  
ニ鎖店又ハ非常ノ損害ヲ受ケタル場合ニ際  
シテハ其負債ノ義務ヲ現在所持ノ株高二割  
合々一切之ヲ擔辨スヘシ

第七條 當會社ニ於テ執行スル營業ノ事務ハ  
此定款並ニ申合規則ニ從フテ之ヲ頭取取締  
役ニ委任スヘシ而シテ頭取取締役ハ其營業  
ヲ確實ナラシメ會社一切ノ責ニ任スルモノ  
トス

第八條 當會社營業年限滿期ノ上尙永續ヲ望  
ム片ハ株主決議ノ上官ノ批准ヲ請ヒテ之ヲ

接續スヘシ

第九條 此定款ハ株主ノ衆議ニ因リ官ノ先准  
ヲ得テ増減更正スルコトアルヘシ

### 第二章

#### 資本金ノ事

第十條 當會社ノ資本金ハ當分ノ内拾万円ト  
爲シ一株百圓即チ千株ト定ムヘシ

第十一條 資本金ハ其幾分ヲ以テ營業ニ相当  
セル地所家屋倉庫ノ構造ニ充テ其殘額ハ實  
付金及ヒ會社ノ所用ニ充テ或ハ公債証書ニ  
換ヘ或ハ銀行ニ預クヘシ

第十二條 右資本金ハ各自受持株高ノ半額ハ

開業一ヶ月前其殘高ハ開業ノ前日迄ニ入金  
シ而シテ株高ニ對スル株式券狀ヲ交付スヘ  
シ

第十三條 株主若シ此開業前ノ入金ヲ總ル氏  
ハ之ヲ除名シ他ノ入社人ヲ募ルヘシ又其殘  
高ノ入金ヲ急タルモノハ入金済ノ高ヲ從セ  
テ賣却シ其買得人ヲシテ又莫ニ充ツヘシ石  
第一第二回ノ入金ヲ總ルモノアルニ當リ買  
得人ヲ募ルモノニ應スルモノナキハ現在  
株高ニ割合ヒ其持株ヲ増加セシメテ全額ニ  
充ツルモノトス

但此場合ニ於テハ既済ノ入金ハ會社ニ没

収スヘシ

第十四条 此資本金高ハ營業ノ景況ニ依リ株  
主衆議ノ上官ノ許可ヲ得之ヲ増減スルヲ  
ルヘシ

第三章

役員ノ事

第十五条 當會社ノ役員ト稱スルモノ左ノ如  
シ

頭取	一人
副頭取	一人
取締役	三人
支配人	一人

副支配人 一人

書記方 二人

検査方 五人

倉庫方 五人

出納方 三人

競賣方 五人

右ノ定員ハ營業ノ都合ニ依リ之ヲ増減又ハ  
兼攝代任セシハルヲアルヘシ而シテ此役員  
ハ其職務ニ對シ會社ニ於テ定メタル給料ヲ  
受クヘシ其頭取取締役ノ給料ハ營業實際ノ  
景況ニ依リ株主ノ衆議ヲ以テ之ヲ定ムルモ  
ノトス

第十六条 當會社取締役ノ撰挙ハ毎年一月ハ  
中旬(初度ノ撰挙ハ起  
指定スル時日場所)ニ於テ株主一同會社ニ集  
會シ三十株以上取持ノ株主中ヨリ人眞五名  
ヲ投票推撰ス而シテ其集會ノ時日ハ少ク氏  
一週日前ニ在職ノ頭取(初集會ハ  
發起人)ヨリ之ヲ報知  
スヘシ

第十七条 此撰挙ニ應シタル取締役ハ又同僚  
ノ互撰ヲ以テ頭取一名或ハ副頭取一名ヲ推  
撰スヘシ

第十八条 頭取取締役ハ其上任ノ日ニ當リ所  
有ノ株式中三十株ノ券狀ヲ當會社ニ預クヘ  
シ會社ハ之ヲ蔵置シ其券狀保護預リ証書

ニ禁受授ノ印ヲ押シ之ヲ渡シ置クヘシ

第十九条 頭取取締役ノ在職期限ハ一ケ年間  
トス故ニ株主三分ノ二以上ノ説ニ依リ解任  
スルノ外ハ必ス勤務スルモノトス若シ期限  
中不時ノ欠算アル片ハ株主ノ衆議ヲ以テ之  
レカ代任又ハ補算ヲ撰ムヘシ

但臨時欠算ノ代任補算ハ在職ノ頭取又ハ  
取締役ニ於テ之ヲ指名シ株主ノ衆議ニ付  
スルトアルヘシ

第二十条 取締役ハ月番ヲ以テ一名ノ検査掛  
ヲ定メ置キ常ニ會社營業ノ景况及ヒ金錢出  
納等ヲ點檢スヘシ

第二十一条 支配人以下ノ役員ハ頭取取締役ノ衆議ヲ以テ適宜ニ之ヲ撰任シ其放免モ亦頭取取締役ノ衆議ニ由ルヘシ

第四章

役員職務上ノ責任権限ノ事

第二十二条 頭取副頭取ハ會社ノ事務ヲ統督シ會社一切ノ責ニ任スヘシ

但執タニ事ヲ起シ或ハ既定ノ規則ヲ改正シ又ハ之ヲ廢止スル等ノ一ノ如キハ取締役ノ決議ニ由ラサンハ専決施行スルヲ得ス

第二十三条 頭取取締役ハ衆議ヲ以テ支配人

以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課程権限給料等ヲ定メ社中差纏ノ事ヲ判決シ金錢ノ出納ヲ管理シ營業上諸般ノ意見ヲ頭取ニ申陳シ社中一般ノ疑問ニ答辨シ又ハ社中衆議ヲ採ラシカ爲メ株主臨時總會ヲ催スノ權アルヘシ

第二十四条 取締役ハ支配人以下ノ役員ヲ撰任スルニ當リ其職務ヲ保証セシマルタメ東京府下在籍ノ相当ナル保証引受人ヲ約スヘシ而シテ本人若シ規則ヲ犯スカ或ハ本務ヲ怠タリタル爲メ本社ノ損害ヲ醸シタルノルキハ相当ノ懲戒ヲ行ク又ハ本人長ニ保証

引受人ヲシテ其償ヲ為サシムヘシ  
第二十五条 取締役ハ其同僚中又ハ頭取ニ於  
テ職任不適當ノ行為アリト認ムルハ株主  
臨時集會ヲ催シ三分ノ二以上、説ニ從ヒ之ヲ  
退職セシムルノ權アルヘシ

第五章

株主權利制限ノ事

第二十六条 株主ハ會社ノ本主ニシテ株高ニ  
應ミタル株券ヲ所持シ株數相当ノ權利ヲ有  
シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時  
々ノ景況ニ着目シ何時ニテモ金錢出納及ヒ  
諸帳簿ノ檢閲ヲ求ムルノ權アルヘシ

第二十七条 株主ハ頭取取締役ノ事務取扱上  
ニ於テ不適當ノ事アルト認ムルハ之ヲ注  
意論辨スルヲ得ヘシ

第二十八条 株主ハ總會ニ於テ發言投票ヲ為  
スニ當リ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎ニ一  
説十一株以上百株迄ハ五株毎ニ一説百一株  
以上八十株毎ニ一説ヲ吐クノ權利アルヘシ  
第二十九条 役員ニアラサル株主ハ會社ト取  
引ヲ為シ又ハ仲買人ト為ルヲ得ヘシ然レ  
氏此場合ニ於テハ一般仲買人ノ規程ニ從フ  
ヘシ

第三十条 株主ハ何者ノ事故アルハ會社營業



ノ年限中ハ其株金ヲ取戻スルヲ得サルヘシ  
第三十一条 株主ハ第六章ノ手放ヲ經ルニ於  
テハ其所持ノ株式ヲ隨意ニ賣買譲與スル  
ヲ得ヘシ

### 第六章

#### 株式賣買譲与ノ事

第三十二条 當會社ノ株式ハ頭取取締後ノ承  
認ヲ受クルニ非レハ賣買譲与ノ効ナカルヘ  
シ故ニ其株式券状ニ証印ヲ爲サ、ル間ハ會  
社ノ損益ハ株式券状ノ名前人ニ負擔セシム  
ルモノトス

第三十三条 定式總會ノ前十日間ハ株式記名

替ヲ停止シ株式帳ノ書改メヲ爲サ、ルヘシ

### 第七章

#### 役員禁例ノ事

第三十四条 會社ノ役員ハ貯蔵ノ物品及ヒ仲  
買人ノ身元金其他有金ヲ規程外ニ出入使用  
スヘカラス且預リ金其他ノ証書共會社ノ印  
証ナキ各自一判ノ証書ヲ用ユルヲ禁ス  
第三十五条 會社役員ハ會社ノ名号ヲ假冒シ  
テ商業ヲ營ミ自己ノ利益ヲ謀ルヘカラス若  
シ之ヲ犯ス片ハ何様ナル事情アル氏不正ノ  
所爲トナシ頭取取締後又ハ株主ノ衆議ヲ以  
テ相当ノ所分ヲ爲スヘシ

第三十六条 會社ノ頭取取締後故意ニ出テタル不適當ノ所為アリテ夫レカ爲メ損乞ヲ生スル片ハ自ラ之ヲ辨償スヘシ

### 第八章

#### 株主總會決議ノ事

第三十七条 總會ハ今テ定式臨時ノニ様ト爲ス定式總會ハ毎年兩度一月七月之ヲ用キ臨時總會ハ頭取取締後ノ適當ナリト思考スル場合ニ於テハ何時ニテモ招集スルコトヲ得ヘシ

第三十八条 人算十名ニ下ラス所持ノ株數當會社總株高ノ五分一二下ラサル株主等ヨリ

書面ヲ以テ臨時總會ヲ請求セル片ハ何時ニテモ其需ニ應シテ招集スヘシ

第三十九条 右ノ書面ニハ其總會ヲ要スル事件目的ヲ記載スヘシ而シテ若シ頭取取締後ニ於テ二週日間以上留レテ其手續ヲ怠リタル片ハ請求人等自ラ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第四十条 總會ノ決議ハ衆説ヲ採ル故ニ病氣其他己ハラ得サル事故アリテ出席シ難キ人々ハ火ス委任狀ヲ授ケタル代人ヲ出スヘシ此代人ハ社中ノ人ヲ用エルヲ要ス若シ代人ヲ出サス決議ノ後ニ至リ異論ヲ奏スルモ一

切採用セサルヘシ

第四十一条 株主遠隔ノ地ニ住スルカ又ハ旅行ヲ為シテ議事招集ノ期ニ會シ難キ懸念アル氏ハ右四條ノ場合ニ於テ差出スヘキ代人ヲ豫シメ委任シ之ヲ會社ニ届ケ置クヘシ

第四十二条 總會ノ議長ハ頭取之ニ當レテ常例ト為スト虽氏頭取取締又ハ株主ノ請求ニ依リテハ別ニ社中ヨリ之ヲ撰挙スルニアルヘシ

第四十三条 總會ニ當リ其召集ノ株主(本人並ニ代人共)総株数ノ半数以上出席スルニ非レハ之ヲ延會シ当日以後五日以内ニ於テ更ニ

閑設スヘシ

### 第九章

純益金配当ノ事

第一條 毎年兩度其半季内ニ收入シタル庫数料及ヒ証書発行手数料貸付金利足競市手数料其他ノ利益ヲ合算シ營業上ノ諸費ヲ引去リタル残高及ヒ公債証書ノ利息ヲ以テ純益ト為シ頭取ハ半季營業ノ報告ヲ開示シ而シテ其配当ノ方法ハ左項ニ照シテ衆議決定スヘシ

第一項 地所家屋什器償却金

但純益金高十分ノ一ヲ以テ之ニ充ツ

一シ

第二項 準備金

但純益金ノ内第一項ノ償却金ヲ引去リタル残高ヲ株高ニ割合セ一ヶ年一割五分(一百分ノ十五)以上ニ當ル片ハ本額ノ十分一ヲ積立金ト為シ或ハ之レヲ貸付資金ニ換シ或ハ之ヲ公債証書ニ換ヘ置クヘシ而シテ準備金ノ高資本金額ノ五割ニ充ツルノ後ハ其積立ヲ止ルヲアルヘシ

第三項 役員賞与配當金

但純益金ノ内第一項ノ償却金ヲ引去リ

タル残高ノ百分ノ十三トス又第二項ノ積立金ヲナス場合ニ於テハ尚之ヲ引去リタル残高百分ノ十五トス而シテ配當準則ハ左ノ如シ

役員配當金十分ノ五 頭取取締役  
全十分ノ五 支配人以下

第四項 株主配當金

但前項ニ掲クル償却金及ヒ準備金役員賞与配當金ヲ引去リタル残高ニシテ之ヲ総株高ニ割賦スヘシ

第四十五條 若シ當會社損失アリテ資本金ニ不足ヲ生ズル片ハ頭取取締役ハ其顛末計算

ヲ株主一同ニ公告シ爾後得ル所ノ利益ヲ以テ之ヲ補ヒ了ル迄ハ一切ノ配当ヲ止ムルヲアルヘシ

### 第十章

報告並ニ検査ノ事

第四十六条 頭取取締役ハ會社ノ簿記ヲ明瞭ニシ日表月表年表ヲ製シ毎月及ヒ毎半季ニ於テ之ヲ大蔵省ニ申稟スヘシ又各株主ノ檢閲ヲ望ムハ片ハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ

### 第十一章

印章及ヒ簿記記録ノ事

第四十七条 當會社ニ用ユル印章ハ左ノ各類

ノ如シ

第四十八条 當會社ノ印章並ニ頭取取締役支配人ノ印章ハ其印盤ヲ大蔵省ニ差出シ置ク

ヘシ

第四十九条 會社ノ簿記日表其他計算書類ハ

精確簡明ナル記程表式ヲ定メ主任者ヲシテ  
一切之ニ遵ル上記セシムヘシ

第五十條 定款及ヒ申合規則ノ改正又ハ官衙

ニ對スル申牒頭取取締役ノ撰挙其他集會並

ニ營業ノ諸件ハ一切之ヲ記録シ頭取取締役

等之ニ檢印シ以テ後日ノ証牒參觀ニ備フヘ

シ

第五十一條 官府ニ對スル諸願届伺又ハ官私

ニ對スル証書約定書往復文書ニ至ルマテ當

會社ノ稱号ヲ用ヒ社印ヲ押シ更ニ頭取取締

役ノ中ニテ自ラ署名ヲ加フヘシ

右ノ條々ヲ取極メタル証據トシテ各姓名ヲ

自記シ調印致シ候也

株主

明治十三年 月

姓名印

東京債倉會社申合規則第一草案

114  
A 3621  
2



東京貸倉會社申合規則

大蔵省ノ允准ヲ得テ爰ニ東京貸倉會社  
ヲ設立シ定款第一章程則第一條ニ記載スル借  
庫貸付競市ノ三務ヲ執行スルニ付事業上緊要  
ノ條項此ノ會社ニ關係スル内外総算互ニ確守  
スヘキ規程ヲ定ムル左ノ如シ

第一部 借庫

第一款 貯蔵品種類ニ期限ノ定

第一條 當會社ノ倉庫ニ貯蔵シ得ヘキ貨物ハ  
内外国産ヲ問ハズ内国人民ノ所有ニシテ數  
量多額輸送ニ便ナラサル即チ穀類塩油酒茶  
綿砂糖紙肥料ホウ音トシ仍ホ其他ノ種類ニ

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈



及フヘシ

第二條 前条品種ノ貯蔵スヘキ負數ハ互相ノ  
冗費ヲ省減スヘキ為メ左ノ表面ニ掲載スル  
一口以上ノ數量ヲルヘシ

類別	品種	一口ノ數量	品種	一口ノ數量
第一類	米	拾石	大小麦	拾石
	大小豆	拾石		
第二類	塩	百表		
第三類	水油	拾樽	魚油	拾樽
	石油	拾函		
第四類	清酒	拾樽		
第五類	緑綿	拾丸	洋緑綿	拾丸

第六類

氷砂糖

拾樽

白砂糖

拾樽

蜜糖

拾樽

黒砂糖

拾樽

船未氷砂糖

拾俵

船未白砂糖

拾俵

全黒砂糖

拾俵

全棒砂糖

拾箱

和紙每種

拾箇

洋紙每種

拾連

糠

貳拾俵

干鰯

貳拾俵

メ糟

五拾個

第三條

貨物貯蔵ノ期限ハ三ヶ月若クハ六ヶ

月トス故ニ満期ニ至リ尚預ケ延ヲ要スル片

ハ一旦敷料ボヲ受収シ預リ証唇ヲ交換シテ

更ニ期限ヲ定ムヘシ

第四條

前条ノ如ク定ムト虽モ已ヲ得ナル部

合ヲ以テ期限内出庫ヲ要スル片ハ一周日前ニ於テ之ヲ通知シ敷料ノ半高返ヲ返付スルヲアルヘシ

芽二款 営業時限並ニ休日ノ更

第五條 営業時間ハ毎日午前七時ヨリ午後五時迄ノ間ニ於テス若シ之ヲ長短スル時ハ一周日以前ニ在リテ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

但本文ノ如ク之ヲ定ムルモ臨時至急ヲ要スルモノハ別段ノ取扱ヲ為スヲアルヘシ

第六條 休業ハ日曜日並ニ祝日祭日ニ限ルヘシ

第七條 臨時休業ヲ為スカ又ハ定例ノ休暇ヲ變更スル片ハ其時々之ヲ廣告スヘシ

芽三款 貨物入庫並ニ出庫ノ更

第八條 貨物入庫貯蔵ヲ望ムモノハ左ノ書式ノ請求書ヲ本社ニ差出スヘシ本社ハ其中込ニ因リ品種ノ性質良否ヲ鑑定シ差戻ナレト認ルモノハ入庫ノ時限運搬ノ手續ボヲ指示スヘシ

貨物貯蔵請求書式

品種	記号	箇数	数量	代價

総計

右何年何月ヨリ何年何月マテ貴社管理ノ倉庫ニ貯蔵スルモノヲ相望候該品貯蔵ニ付テハ貴社一切ノ規則恪守可致ニ付御承諾ノ上賣買抵当両様ノ証書御交付可成下候也

府縣區郡町村番地

年月日

預ケ主 姓名 印

東京府下區郡町村番地

保証引受人 姓名 印

東京債券倉會社頭取某殿

第九條 右請求各ニ記載スヘキ價格ハ必ス原價ヲ以テスヘシ此價格ハ万一會社ノ過誤ヲ

以テ損傷遺失セシ片其損分ヲ償フヘキ標準タルカ故ニ若シ記載スル所時價ニ比照シ不相当ト認ル片ハ品主殿議ノ上之ヲ改メシムヘシ

第十條 入庫ノ物品ハ品主立會ニテ至当ノ検査ヲ為シ而シテ賣買用抵当用兩様ノ預リ証書ヲ交付スヘシ

第十一條 物品所有主ノ望ニ依リ別段ノ検査ヲ要スル片ハ數量品位ホ一々之ヲ鑑定ヲ為シ預リ証各面其事由ヲ明記スヘシ然ル片ハ特別手数料トシテ原價 分ノ ヲ徴収スヘシ

第十二条 貯蔵物品ノ内若シ腐敗シ又ハ他ノ物品ヲ損害セント認ルルハ速ニ品主又ハ保証引受人ニ通知シ日ヲ記シテ之ヲ出庫セシムヘシ

第十三条 貯蔵物品ノ出庫ヲ望ムモノハ其品類ニ對シテ曾テ會社ヨリ発行シタル預リ証各兩様ヲ持參スヘシ會社ハ之ヲ帳簿ニ照合シ敷料ヲ受取タル上之カ引渡ヲ為スヘシ

第十四条 貯蔵物品ニ對シ発行スル預リ証各ハ左ニ掲ル兩様ヲ併セテ完備セルモノトス品主ノ要望ト雖モ其一ヲ交付スルヲ得カレ

ヘシ

第 号 賣買用預リ証書

倉庫地番号	品種	記号	箇数	数量	敷料

右當會社ノ倉庫ニ貯蔵セシテ預リ証明ス此証書ノ所有主ハ抵当用預リ証各ト共ニ裏面所有主並ニ保証人ノ位置ニ調印シ定規ノ諸費用ヲ拂入ルニ於テハ何時ニテモ物品ヲ可相渡候也

東京貸倉會社頭取

年月日

姓名 印

全 支配人

姓名 印

約則

一此証倉ヲ所持スルモノハ東京貸倉會社ノ諸規則ニ從フヘシ

一此証倉ヲ以テ外國人ト取引ヲ為スヲ禁ス

裏面

年月日	借入金額	全期限	全利息	會社支配印	賣渡人印	所有主印	所有主保印
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、

第号

抵当用預り証書

倉庫貯蓄品 種記号 箇数 数量 敷料

右當會社ノ倉庫ニ貯藏セシテラ証明ス此証倉ノ所有主ハ賣買用預り証倉ト共ニ裏面所有主並ニ保証人ノ位置ニ調印シ定規ノ諸費用ヲ拂入ルニ於テハ何時ニテモ物品ヲ可相渡候也

東京貸倉會社頭取

年月日

姓名 印

全 支配人

姓名 印

約則

一此証書ヲ所持スルモノハ東京貸倉會社  
ノ諸規則ニ從フヘシ  
一此証書ヲ以テ外國人ト取引ヲ為スヲ禁  
ス

裏面

年月日	借入金額	全期限	全利息	會社契印	賣渡人印	所有主印	所有主印
、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、

第十五条 右ノ証書ハ貯蔵品ノ每一口ニ付各

一通ヲ交付スルヲ常トスト雖此品主ノ要求

ニ依リテハ數口又ハ數十口ヲ保セ一通ト為

スヲ得ヘシ然レハ種差ヲ混一スルヲ得ズ且

其幾部カヲ分テ受取ルヲ得ナルヘシ

第十六条 此兩様ノ証書ハ運搬輕便ナル各種

ノ貨物ト為ス故ニ実品在庫ノ終証書ヲ以テ

轉傳賣買實入抵当ト為スハ随意タルニ由リ

其品差ト會社ノ考按トニ因リテハ豫メ見本

ヲ取置テアルヘシ

第十七条 証書若シ所有者一午元ニテ失ヒタ

ル片ハ速ニ之ヲ會社ニ届ヒヘシ會社ハ其趣旨  
ヲ詳記シ揭示ヲ爲シ又三週日間新聞紙ヲ以  
テ廣告シ尙祭見セサル片ハ假令該日祭見ス  
ルモ廢紙タル旨ノ保証人二名以上連印ノ証  
昏ヲ取りタル上更ニ代証昏ヲ付与スヘシ  
但新聞廣告料代証昏發行手数料ハ請求主  
ヨリ年償セシムヘシ

茅五款 預リ証昏賣買ノ支

茅十八条 通常ノ賣買ハ兩様証昏ノ裏面賣買  
人所有主及ヒ保証人ノ位置ニ調印ヲ爲シテ  
ル上會社ノ檢印ヲ受クヘシ尤至当ナル委任  
状ヲ付シタル代人ヲシテ之ヲ取扱ハシムル

モ妨ケナキモノトス

但此場合ニ於テ賣買人若シ實品ノ鑒査ヲ  
望ム片ハ之ヲ許スヘシ

茅十九条 賣買ノ際ニ當リ賣人賣買用証昏ノ  
ニ所持シ振当用証昏ノ借入金振当ニ係ル片  
ハ買受人ニ於テ証昏裏面記入ノ元和金ヲ引  
去タル殘額ヲ渡シ元所有主ニ代リ債主ニ對  
シ拂方ヲ爲スモ妨ケナシ然レモ元所有主ハ  
必ス其旨ヲ債主ニ通知シ帳簿ノ書替ヲ求ム  
ヘシ

茅二十条 此証昏ハ貯藏期限以内ニ在リテ五  
週日間ヨリ長カラサル延賣買ハ之ヲ行フヲ得

へ此場合ニ於テハ競市場ノ帳記公認ヲ經  
賣人ハ賣買用証券買人ハ賣人ノ満足スル代  
價ノ内金ヲ會社ニ預ケ満期ニ至リ才十八條  
ノ手續ヲ了スヘシ

茅廿一條 賣人満期前若シ代價ヲ要スル片ハ  
便宜他ノ債主ヲ求メテ該証券ヲ割引スルモ  
妨ケナシ尤當會社ハ其割引受人ノ需ニ応  
シ何種幾何号ノ賣買用証券ハ之ヲ当社ニ保  
管スル者ノ唇面ヲ差出スヘシ

茅廿二條 買人満期前若シ其買得權ヲ他人ニ  
移サントスル片ハ先ツ<sup>競市場</sup>帳記公認ヲ經  
自身差入置タル全額ノ代價内金ヲ次ノ買得

人ヲシテ差入シタルニ於テハ其轉賣ヲ許ス  
ヘシ

茅廿三條 右延賣買代價内金ノ額ハ賣人ノ満  
足スル高ヲ以テ程度ヲ立ルト然レ當會社ニ  
於テ專ラ之ヲ指定スルノ権アルヘシ

茅廿四條 質入抵当ノ賣

茅廿四條 抵当用証券ヲ以テ金貨ヲ借入シト  
スル片ハ兩様証券ノ裏面借入金額期限利息  
賣渡人ノ位置ニ夫々記入調印ヲ為シ其一抵  
当用証券ハ債主ニ交付シ其一賣買用証券ハ  
自ラ之ヲ携帶スヘシ

茅廿五條 右証券ニ對シテ貸金ヲ為シタル債



主「即割之ヲ当社ニ報告スヘシ然ル片ハ當  
會社」他日其債主ヨリ返金済ノ報知ヲ得ル  
迄「認メテ以テ該物品占有ノ權アルモノト  
ス故ニ借受人其記入ヲ惰リ貸付人其報告ヲ  
願キタルヨリ生スル高藤調訟ボ」當會社其  
責ニ任セサルヘシ

茅廿六条 証倉ノ物品ハ當會社其品類數量ヲ  
保証スルト雖モ質取主ハ其要用ナルヲ思量  
セ「本庫ニ就テ実品ヲ検査スルヲ得ヘシ  
茅廿七条 負債者若シ借金償還ノ期ヲ怠ルカ  
為メ債主自ラ會社ニ就テ該品ノ競賣ヲ要望  
スル片ハ會社「先キノ報告倉及ヒ帳簿ニ照

シ錯誤ナキヲ認メタル上ハ元品主ノ諾否ニ  
拘ラス其需ニ応スヘシ

茅廿八条 右ノ場合ニ於テハ曾テ品主ニ交付  
シタル賣買用証倉ノ還納ヲ促シ之ヲ新品主  
ニ渡スヘシ若シ還納ヲ怠リ或ハ拒ム片ハ其  
廢紙タルヲ掲示廣告シ更ニ代証倉ヲ交付  
スヘシ代証書発行料ハ別ニ徴収セサルモノ  
トス

茅廿九条 右競賣代金ハ其内ヨリ敷料及ヒ競  
市諸費ヲ引去リタル残額ヲ以テ債主ノ貸金  
元利ヲ償却シ餘余アル片ハ負債者ニ返付ス  
ヘシ若シ又其償却ニ不足ヲ生シタル片ハ債

主ハ 負債金ニ對シテ 通例ノ 要償ヲ 為スヘシ

第七款 敷料ノ 支

第三十条 敷料ハ 物品入庫済ノ 上左表ニ 照シ  
直ニ 其一ヶ月分ヲ 徴收シ 翌月以後ハ 毎月十  
五日(休日ナレバ 其翌日)ヲ 以テ之ヲ 徴收スル  
ヲ 法トス 若シ 品主之ヲ 怠リタルハ 保証人  
ヲ シテ 弁償マシムヘシ

但入庫約定ノ 日ヨリ 起算シ 三十日ヲ 以テ  
一ヶ月ト 定ムヘシ

类别	品名	数量	一月敷料
第一类	米	拾石	金
	大小麦	全上	金

第二类	品名	数量	金
第二类	塩	百俵	金
第三类	水油	拾樽	金
	魚油	全上	金
	石油	拾箱	金
第四类	清酒	拾樽	金
第五类	和綿綿	拾丸	金
	洋綿綿	五丸	金
第六类	冰糖	拾樽	金
	赤白糖	全上	金
	蜜糖	全上	金
	黑糖	全上	金

スヘシ

類別	品種	数量	手数料	特別手数料
才一類	米	拾石	金	金
	大小麦	全上	金	金
	大小豆	全上	金	金
才二類	塩	百俵	金	金
才三類	水油	拾樽	金	金
	魚油	全上	金	金
	石油	拾箱	金	金
才四類	清酒	拾樽	金	金
才五類	和綿綿	拾丸	金	金
	洋綿綿	拾丸	金	金

茅八類		茅七類		茅六類		茅五類		茅四類		茅三類		茅二類		茅一類	
ノ	干	洋紙	和紙	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
糴	麩	糶	糶	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖
百	百	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾
回	俵	連	箇	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵	俵
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金

茅三十一系 發行証番ハ 品類毎一口各一通ヲ 発  
付シ一通ニ付左表ノ 割合ヲ以テ之ヲ 徴収ス

茅八類 証番發行手数料ノ 変

		茅八类		茅七类								茅六类
×	干	糠	洋紙	和紙	全棒糖	全赤糖	糊水糖	黑糖	蜜糖	赤白糖		冰糖
糟	籾		每種	每種	九箱	全上	全上	全上	全上	全上		拾樽
百	全	百	拾	拾	金	金	金	金	金	金		金
個	上	俵	運	箇								
金	金	金	金	金								
金	金	金	金	金								

茅三十二条 茅四款茅十五条ノ要求ニ応テ教  
 口ヲ併セ一通トナスモノハ一口以上五口迄  
 ハ每一口三分ヲ減シ六口以上十口迄ハ每一  
 口二分ヲ減スヘシ十口以上ハ皆十口ノ割合  
 ヲ以テ徴収シ後ト違減法ヲ用ヒス

茅九款 期限ヲ過キタル貯蔵品ハ、夏  
 茅三十三条 期限ニ至リ出庫又ハ預ケ延ノ手  
 続ヲ爲サ、ルニ因リ之カ督促ヲ爲シタル片  
 品主若シ之ヲ怠リ之ヲ拒ミ其督促当日ヨリ  
 一週日ヲ過ルカ或ハ品主及ヒ保証人ノ居所  
 不明ナラサル為メハ搜索時日一週間ヲ経テ  
 ル片ハ其ニ會社ニ於テ競賣ニ付シ其代金ハ

會社ニ保管シ追テ品主ノ申出ニ応シ至當ナル処分ヲ為スヘシ

第三十四条 物品在庫期日ニ於テ意外ノ原因ヨリ腐敗又ハ損傷ノ兆ヲ顯シタル為ニ出庫ヲ督促スルキ品主若クハ保証人其手續ヲ急リ又ハ拒ミタルキハ前条ノ例ニ照シ処分スヘシ

第三十五条 前条ノ場合ニ於テ競賣ニ付タル物品他ノ借金ノ抵当タルハ競賣前之ヲ債主ニ報告シテ抵当用証券會社ニ返付セシメ而シテ代金ノ内ヨリ敷料競賣諸費ヲ収入シタル残金ヲ以テ債主ノ元利ニ仕掛ヒ若

シ余金アレハ之ヲ會社ニ保管シ追テ品主ノ申出ニ応シ至當ノ処分ヲ為スヘシ其元利金ニ不足ヲ生シタル為メ債主要償ノ手續ヲ為スハ一般ノ法例ニ依ルヘシ

第三十六条 此ノ競賣ノ際ニ當リ相場低下ニ在リテ債主看ス損害ヲ蒙ルカ為メ自ラ代リテ品主ト為ルヲ望ム片ハ之ヲ承諾スルト虽モ出庫ノ期日ハ遅延スルヲ得サルヘシ

第三十七条 前四ヶ条ノ場合ニ於テ賣買抵当兩様証券ノ還納ヲ促スモ若シ之ヲ急リ之ヲ拒ム片ハ其ニ添紙ト為シ其旨趣ヲ揭示廣告スヘシ

茅十款

貯蔵品ニ對スル會社ノ責任ノ度  
第三十八条 本庫貯蔵ノ物品万一天災地獄盜  
匪ヲ通常監守者ノカヲ以テ防衛シ能ハカル  
異變ヨリ蒙リタル損傷遺失ハ當會社ノ責  
ニ任セサルヘシ

第三十九条

物品入庫ノ際社負立會ニテ検査

ヲ遂ケシモノト雖モ追テ出庫ノ時自然ノ欠

減(并減樽減腐化虫喰)ハ會社其責ニ任セサル

一シ

第四十条

品主ノ望ニ依リ一戸以上ヲ貸与シ

社負立會ノ上封緘鎖鑰ヲ為シタルモノ若シ

破損セハ品主ハ速ニ會社ニ通知シテ修繕ヲ

促スノ理アルヘシ然レモ品主ノ不注意ヨリ

破壊ヲ醸シタルハ其修補費ハ品主之ヲ償

フモノトス

茅十一款

倉庫ニ屬シタル禁例ノ度

第四十一条

品主タリトモ會社ノ承認ヲ得ル

ニアラカレハ倉庫ニ入ルヲ許サス

第四十二条

何人ヲ論セス倉庫ニ於テ吹烟ス

ルヲ禁ス

第四十三条

倉庫内ニ於テハ硝子製提燈ヲ除

クノ外他ノ燈火ヲ使用スルヲ許サス

茅二部

貸付

茅一款

抵当ノ効用及ニ貸付手續ノ度

第一条 凡リ当會社ノ倉庫ニアル貨物ハ抵当  
ノ能カヲ抵当用証書ニ譲与セタルモノトス  
故ニ何ゾノ場合ト虽モ單ニ貨物ノ実品ヲ以  
テ抵当ニ共スルヲ得サルヘシ

第二条 右ノ原則ナルカ故ニ貨物ニ對シ貸付  
ヲ為ス債主ハ會社發行ノ抵当用証書ヲ收握  
セタル上ニテ初テ物品占得損害要償ノ權ヲ  
有スヘシ此ノ証書ヲ收握セサル貸付ハ当社  
ハ之ヲ債主ト看做サ、ルモノトス

第三条 貸主借主前条ノ規則ヲ知リテ故ラニ  
違背シ若クハ知ラスレテ背戻スル片ハ會社  
ハ借主ニ科スルニ貨物ノ原價一割(百圓ニ付  
十圓)

以內ノ罰金ヲ以テシ而シテ改テ規程ノ手続  
ヲ踐マシムヘシ且ツ先キニ既ニ規則ニ從ヒ  
タル貸借アル片ハ物品占得ノ權ハ皆先キノ  
債主ニ屬シ後ノ貸主ノ損害ハ当社ニ關係  
セサルヘシ

第四条 貸金返済ノ期限ニ至リ借主之ヲ怠リ之  
拒ムコトアル片ハ會社ノ考案又ハ他ノ債主ノ  
申込ニ由リテ其物品証書ヲ競賣ニ付シ代金  
ノ内ヨリ先ツ敷料競賣費及ヒ元利金ホテ引  
去リ余金アルハ借主ニ返付シ不足アルハ亦  
人又ハ保証人ヲシテ之ヲ弁償セシム若シ其  
弁償ヲ怠リ又ハ拒ム片ハ通例要償ノ手続ニ

及フヘシ

第五條 一 抵当物品ノ價格若シ額ニ下落シ敷料  
及ヒ元利金ホニ不足ヲ生スヘキ懸念アル片  
ハ其趣ヲ直ニ借主ニ通知シ時日ヲ期シテ内  
金若干ヲ還納セシムルカ又ハ増抵当ヲ差入  
シムヘシ若シ之ヲ怠リ之ヲ拒ム片ハ前條及  
ヒ亦一部亦九款亦一條ノ例ニ照シ処スヘ  
シ

第六條 一人若クハ数人連合ノ債主當會社ノ  
名号ニヨリテ貸付ヲ為スヲ望ム片ハ其要  
望スル抵当ノ種類及ヒ金額期月ハ適宜考據  
ヲ定メ當社ニ申込置ヘシ當社ハ我カ貸付方

同一ノ手續ヲ以テ之ヲ取扱フヘシ

但當社在庫物品証昏抵当ノ貸付ニアラス  
レハ之ヲ謝絶スヘシ

第七條 右委批ノ貸付ヲ取扱ヒタル片ハ某ノ  
証昏ヲ抵当トシ利足若干ヲ以テ某ノ月日ヲ  
期シ貸付シタル頭取支配人署名書面ヲ交付  
シ抵当証昏ハ之ヲ當社ニ保管シ置クヘシ

才二款 代金取立ノ事

才八條 當會社ト豫メ約定ヲ為シタル隔地ノ  
荷主ヨリ物品ヲ輸送シタル片當會社ハ貨物  
ノ品質數量ヲ検査シ差支ナキモノハ速ニ入  
庫取計ノ上其取引先又ハ兼テ定メタル取扱



代理人ノ方ニ通知シ定例ノ兩様証書ヲ交付スヘシ

第九條 物品輸送主ハ其送り出シニ先ツテ其ノ月日ヨリ其ノ品類數量ヲ当社倉庫ニ貯蔵シタキ旨ノ定例申込唇ヲ差越シ当社諾否ノ回答ヲ得タル後輸送ノ取計ニ及フヘシ若シ其通知承諾ヲ得ナルカ又ハ承諾ヲ与ヘタルモノト虫氏当社ノ規則ニ於テ貯蔵ニ能ハサル品質變性ノ物件ナル片ハ到着ノ日ニ於テ謝絶スルヲアルヘシ

第十條 右ノ場合ニ於テハ兼テ約定シタル其ノ月日ヨリ謝絶ノ談判ヲ了スル迄ノ時間品

類數量ニ応シタル豫備倉庫ノ敷料ヲ徴収スヘシ

第十一條 輸送ノ物品ニ對シ交付スル証書ハ荷主ノ差因ニ応シ本人又ハ代理人或ハ取引先ニ渡スヘシ然レモ成規ノ賣買手続ヲ了スル迄ハ會社ハ都テ最前ノ申込人即荷主ヲ以テ品主ト看做シ一切ノ責任擔弁ヲ其品主ニ負ハシムヘシ

第十二條 荷主既ニ其取引先ニ賣渡シタル貨物ノ代金取立ヲ当社ニ委託スル片ハ当社ハ通知ノ金額ヲ其買受人ヨリ受取タル上証書裏面社印押捺ノ手続ニ及ビ而シテ頭取支配

人署名ノ金負預リ唇面ヲ兼テ定ツアル取扱  
代理人ニ渡スヘシ

第十三条 隔地ノ品主互ノ信用契約ヲ以テ既  
ニ延賣買ヲ為シタル貨物ノ代金取立ヲ當會  
社ニ委託スルニ當リ満期前ニ在リテ亦一部  
芽三款芽三条ノ場合ニ際シ該貨物ノ出庫ヲ  
要スル片ハ一面之ヲ旧品主ニ通知シテ其取  
扱差圖ヲ促シ一面之ヲ新品主ニ通知シテ其  
出庫手續ヲ為サシムヘシ而シテ通知到達後  
相当ナル時日(郵便到達日限ノ)ヲ経過シタル  
上更ニ三日ヲ経ルモ旧品主ノ回答ヲ得サル  
片ハ新品主ヲ以テ出庫セシムヘシ

第十四条 右ノ手續ヲ以テ出庫シタル貨物ノ

代金ハ満期ニ至リ当社其取立ニ從事スヘシ  
ト虫氏延滞不納ホノ責ハ之ニ任セサルヘシ

第十五条 代金取立並ニ其取扱ニ就テ要スル  
該種ノ費用ハ事實金額難易ホニ志シ品主慨

談ノ上至當ナル割合ヲ定メ之ヲ收受スヘシ  
第十六条 輸送シタル貨物ヲ抵当ト為シ直ニ

当社又ハ他ヨリ借入金ヲ為スモノ及ヒ取立  
タル代金ヲ以テ直ニ当社ノ名号ニ依リテ他  
一貸付ヲ為スモノハ皆本款貸金手續ノ各条  
ニ準レテ之ヲ取扱ヲ為スヘシ

牙三部 競市

第一款 競賣立會并ニ制限ノ度

第一款 當會社倉庫貯蔵ノ物品証券ヲ賣買取引スルハ必ス當競市場ニ於テ其時間ハ每日午前才七時ヨリ午後才五時迄ト定ムヘシ  
第二款 右時間ヲ区畫シテ午後二時迄ヲ賣買時限トナシ三時以後ヲ取引時限トスヘシ  
第三款 會社ノ競賣方ニ名簿記ニ名及ヒ仲買委員一名ハ場ノ中央高キ所ニ臨ミ逐次品類ノ標榜ヲ回轉シ賣買契約ノ定マルニ志シ帳簿ニ記入スヘシ此ノ記帳ハ約定保信ノ根拠

タルニ由リ既ニ記入ヲ了ハタルモノハ賣買人其錯誤ナルヲ述テ之ヲ改更スルヲ得ス  
第四條 競賣ノ呼價ハ左ニ掲ケル負教ノ直段ヲ用エヘシ

米 麦 大小豆

右一石ノ直段ヲ以テス

塩 舶来糖委 糠 干鰯

右一俵ノ直段ヲ以テス

水油 魚油 清酒

右一樽ノ直段ヲ以テス

石油 舶来棒砂糖

右一箱ノ直段ヲ以テス

和綿綿

洋綿綿

右一ト九ノ直段ヲ以テス

和紙毎種 洋紙毎種

右一箇一連ノ直段ヲ以テス

ノ糟

右拾個ノ直段ヲ以テス

第五條 競賣ノ物品ハ当社管理在庫ノ数量品

種ニ限ルヘシ他ノ貯蔵ノモノヲ以テ流用供

給スルヲ許サス

第六條 賣買ノ時々品種算數代價及ヒ仲買姓

名并ニ賣買<sup>本人</sup>ハ姓名ヲ場ノ帳簿ニ記入シ照

合時限ニ於テ発行証唇ノ元簿ニ突キ合セ若

シ其賣掛ケ數量ニ過剩アリタル片ハ賣人ヲ

シテ買入ノ満足スル過急金ヲ拂ハシムヘシ

第七條 代價物品ノ受渡ハ総テ現金ト物品証

唇ト引替タルヘシ然レテ双方會社ノ受渡場

ニ至リ社算ノ面前ニ於テ之ヲ行フモノトス

第八條 既ニ賣買取引ヲ了シタル物品証唇ニ

シテ尚裏面會社ノ捺印ヲ受カル前之ヲ他ニ

賣渡スハ妨ケナシト雖モ會社其轉傳賣買ヲ

帳記取引上ニ領知スルニ止リテ該証唇一切

ノ責任ハ皆記名品主ニ負ハシムヘシ

第九條 賣買人双方ノ都合ヲ以テ五週日ヨリ

長カラス貯蔵期限ヲ超ヘカル延約定ヲ為ス

ハ妨ケナキモノトス然レモ此場合ニ於テハ  
 賣人ハ其当日午後四時限リ賣買用証昏ヲ會  
 社ニ差出シ買人ハ賣人ノ満足スル代價内金  
 ヲ全刻會社ニ差入置ヘシ

第十條 約定期日内相場甚ニ低落ヲ為シタル  
 片ハ賣人ハ何回マテモ内金差入ノ増加ヲ買  
 人ニ求ムル理アルヘシ

第十一條 右代價内金ノ額ハ賣人ノ満足スル  
 高ヲ以テ程度ト為スト虫氏會社ハ之ヲ取捨  
 増減スルノ權アルヘシ

第十二條 賣買取引手数料及ヒ仲買口錢ノ支

ニ以内ト為シ当分ノ内左ノ表面ノ通り定ム  
 ヘシ

才一類	一口ニ付	金
才二類	全	金
才三類	全	金
才四類	全	金
才五類	全	金
才六類	全	金
才七類	全	金
才八類	全	金

第十三條 右ノ手数料ハ賣買ノ記帳ヲ了ヘタ  
 ルキニ於テ之ヲ徴収スルノ理義アルモノト

ス故ニ本日ノ公ハ翌日ノ開市迄ニ必ス之ヲ  
返納付スヘシ

第十四条 各仲買ノ口銭ハ其仲買人ト賣買本  
人トノ示談ニ任ス然レモ前以テ之ヲ一定シ  
會社ノ承認ヲ受ケ置クヘシ

第十五条 手数料及ヒ仲買口銭ハ他ノ計美ニ  
先チテ之ヲ收受スヘシ其定賣買ニ係リ猶取  
引ヲ了セカルル迄ハ皆全一ノ取扱トス

第三条 仲買人並ニ其手代ノ事

第十六条 当社ノ仲買人ハ各商ヲ係セテ五百  
名ヲ限リ其余ハ入社ヲ許ササルヘシ

第十七条 仲買人ハ定負ノ内ニ於テ相流用ス

ルヲ得ヘシ而シテ其入社ハ申込ノ順序ニ從  
フモノトス

第十八条 仲買人ハ毎月一度(一月)全業集會ノ  
上投票ヲ以テ每商各二名ノ委員ヲ撰定スヘ  
シ此ノ撰挙セラレタル委員ハ當會社ノ競賣  
方ト同シク市場ノ諸務ヲ所弁シ會社ノ諸傳  
達ヲ受次キ又ハ會社ニ對シ仲買一回或ハ教  
人ニ連リタル諸般ノ事件ヲ措置スルモノト  
ニ任スルモノトス

第十九条 右集會撰挙ノ時日規定ハ當會社ヨ  
リ通告示達スル所ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

第二十条 仲買人ト爲ラント欲スルモノハ其

族籍住所姓名年齢ボヲ詳記シタル唇面ニ二  
名以上証人ノ連署ヲ加ヘ入社ノ申込ヲ為ス  
ヘシ

第二十一条 會社此唇面ヲ落手セハ其加入ノ  
可否ヲ考定レ尚一週日間之ヲ市場ニ揭示シ  
他ノ故障ナキヲ認メタル後之カ入社ヲ許ス  
ヘシ

第二十二条 仲買金元金ハ各商共ニ一名三百  
圓ト定ム此ノ身元金ハ入社ノ承認ヲ得タ  
ル翌日現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第二十三条 仲買人退社ヲ望ム片ハ唇面ヲ以  
テ申込ヘシ會社ハ一週日間市場ニ揭示シ本

社一般并ニ在庫貨物ノ品主ニ係リタル諸計  
美ボノ関涉ナキヲ認メタル後其請ヲ許シ身  
元金ヲ返付スヘシ

第二十四条 仲買人不正ノ所業又ハ違約ヲ以  
テ除名ノ所分ヲ受タルモノハ情ノ輕重ニ由  
リ其除名以後滿ニケ年ヨリ多カラサル時間  
ヲ<sup>経</sup>過ルニ非レハ入社ハ勿論他ノ手代トナリ  
テ營業スルヲ許ササルヘシ

第二十五条 仲買人手代ヲ會社ニ出シ賣買取  
引ヲ代弁セシメント欲セハ唇面ヲ以テ申出  
ヘシ此唇面ハ其手代ノ住所姓名及ヒ取扱  
フヘキ事務金銀取引ノ權ボヲ細記スヘシ而

レテ其人負ハ一人ヲ限ルモノトス

茅廿六条 會社ハ右各面ヲ一週日間市場ニ掲

示レ他ノ故障ナキヲ認メタル上之ヲ許スヘ

レ許諾ヲ得サル前ハ手代ヲレテ賣買ヲ為サ

レムヘカラス

茅廿七条 手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ

會社ニ標出シ置リヘシ手代委任ノ權ヲ解カ

ントセハ各面ヲ以テ之ヲ申出テ會社ハ之ヲ

市場ニ掲示レテ其姓名ヲ削除スヘシ

茅廿八条 手代タリシ者轉レテ他ノ手代トナ

ラントスルカ又ハ自ラ仲買人トナラント欲

スル片ハ元主人タリシ仲買人ノ承諾ヲ得ル

ニ非レハ之ヲ許容セサルヘシ

茅四款 賣買中止並違約処分ノ事

茅廿九条 仲買人中不徳当ノ賣買ヲ為スモノ

アリト思量スル片ハ會社ハ之ヲ差止ルカ為

ナニ一般ノ賣買ヲ中止スルトアルヘシ

茅三十条 仲買人若シ賣買品ノ受渡ヲ怠ル片

ハ之ヲ違約人ト為シ會社ハ身元金ヲ没収シ

タル上除名ノ取計ヲ為スヘシ又他ノ違約ノ

為メニ相手方ニ於テ損害ヲ蒙リタル片會社

ハ没収<sup>没収</sup>セシ身元金ヲ以テ其損害ノ高ク償ヒ

尚不足アレハ被損者ヲレテ自ラ通例ノ要償

ヲ為サレムヘシ若シ此ノ違約ノ延賣買ニ係



リ身元金ニテ不足アル片ハ賣方ノ違約ナレ  
ハ兼テ差入アル賣買用証各ヲ競賣ニ付テ既  
ニ負債ノ抵当タルモノハ先ツ會社常例ノ微  
収及ヒ債主ノ元利金ヲ償却シタル残金限り  
買方ニ渡シ余金アレハ其本人ニ返付シ其買  
方ノ違約ナル片ハ兼テ差入アル代價内金限  
リ賣方ニ渡シ余金アレハ其本人ニ返付スヘ  
シ又賣買者共ニ受渡ヲ怠ル片ハ其約定ハ無  
効ニ付シ双方ノ身元金ヲ没収スヘシ

第三十一條 凡リ仲買人賣買上違約ハ賣買本  
人其責ヲ免ルヲ得ス故ニ物品競賣内金没  
収ノ所置ニ付會社ニ對シテ不服ヲ訴ルヲ

得サルヘシ

第三十二條 當會社ノ仲買人タルモノ市場ノ  
帳簿ニ記入セス相對私約ヲ以テ在庫物品ノ  
賣買ヲ為サント謀リ又ハ市場ノ相庭ヲ標的  
ト為シテ空ニ賣買ヲ約シタルモノ所業發顯  
シタル片ハ皆違約人ノ例ヲ以テ之ヲ所分ス  
ヘシ

第三十三條 違約所分ノ場合ニ於テハ事情ノ  
轻重ニ因リ保証人ヲシテ相当ノ過怠金ヲ差  
出サレハルヲアルヘシ

第三十四條 仲買人其同業ニテ若シ三分ノ二  
以上不熟知ノモノアリテ日常一般ノ賣買取

引ニ防碍アル旨ヲ會社ニ申出ルカ又ハ行為  
不正ノ公評ヲ蒙リタル旨ヲ三名以上ヨリ具  
陳スル片ハ會社ハ更ニ臨時之ヲ除名スル  
アルヘシ此場合ニ於テハ身元金ハ之ヲ返付  
スルモノトス

第五款 規則更正及ニ増減ノ更

第三十五條 此ノ規則ノ各條項ニ於テハ實施  
ノ上不便亘ナルトアルカ又ハ遺漏<sup>漏</sup>欠畧ノ件  
アル片ハ頭取取締役ハ何時ニテモ之ヲ補正  
シ官ノ允准ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

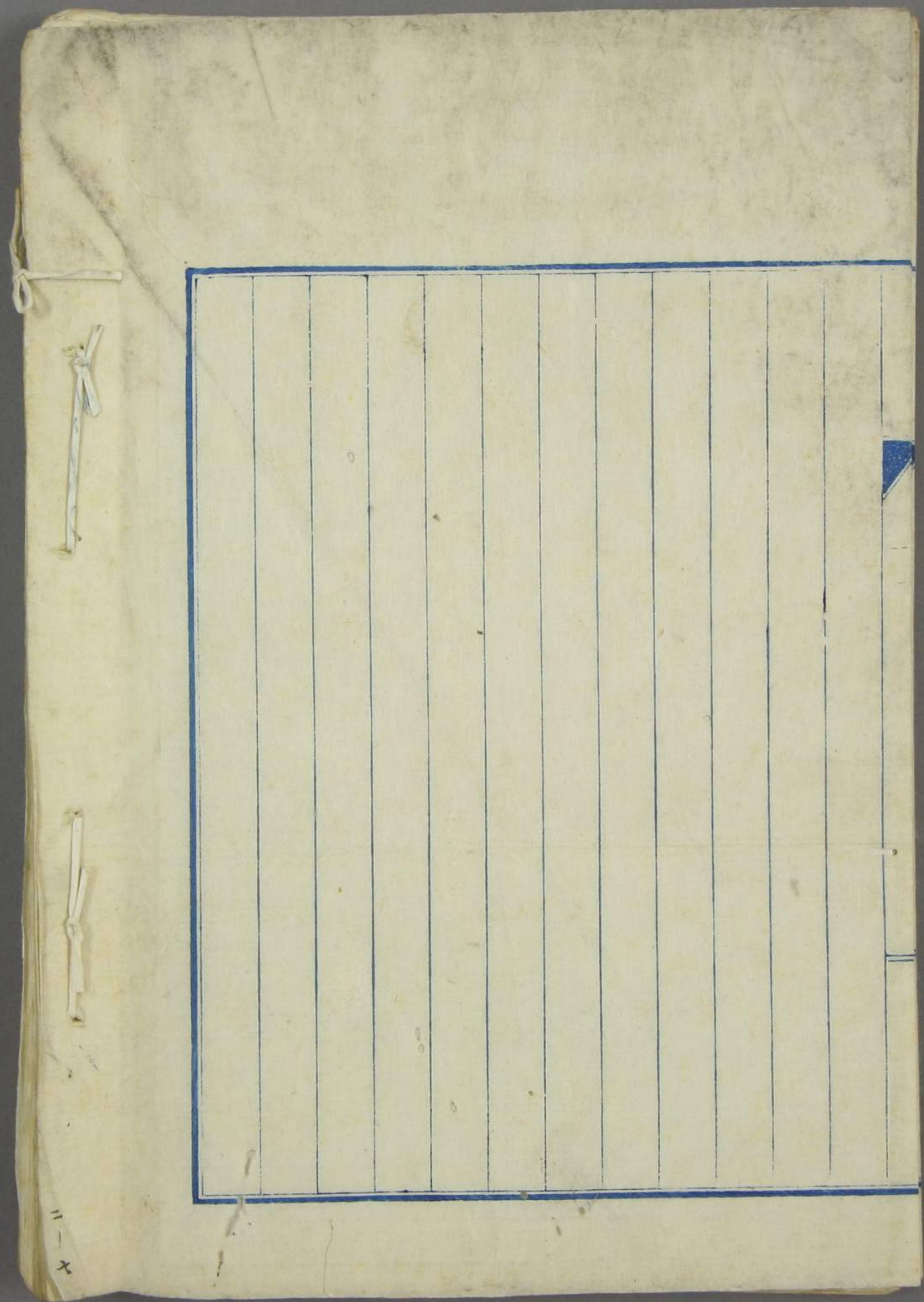
右規則ハ當會社營業上何レモ確守スヘキ証拠

トシテ株主並ニ仲買一同記名調印後也

株主

仲買人

姓名印



二  
x